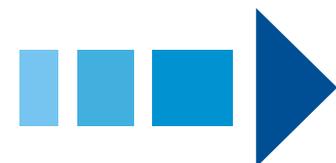


個性を活かす活かし愛、助け愛、育み愛

# 電子個性通価

デジログ実践家・秀島誠一

<http://shien-p.com/>



# かつての古き良き時代

「ぼく、角のタバコ屋で「いこい」ば  
買って来てくれんね」

「今日、家ば留守するけん、頼むね」

「屋根に上るけん、ちょっとハシゴば支えとって」

「買い物に行くなら、ついでに買って来て」

「醤油がのうなったけん、貸して」

私の幼少の頃、毎日行われていた助け合いです。

「ありがとう、カステラ食べんね」

「助かった、これお土産たい」

「きつかったね、ご飯食べていかんね」

「ちょっと少なかばってん、みかんのおっそわけ」

「良かったら、テレビ見ていかんね」

そのお礼として、かえってきた言葉です。

- お互いの関係を認め合い尊重し、お金がなくても安心感と心豊かに生きる思いやりがありました。
- 昔、自然に行われていた、「活かし愛、助け愛、育み愛」今こそ、必要なのです。
- インターネットを有効に活用することで今の時代にあった実現が可能です。
- 今の時代にあった「活かし愛助け愛育み愛」  
⇒感謝のポイントがつなぐ絆と広がり。
- 今、蘇る、ひとりひとりの繋がりと励ましあい  
安心と勇気、自立と仲間、愛は国境を越える  
そして some money

# 経済至上主義とお金の性格

- 本来、お金とは物やサービスの入手手段として、その価値に相当な代替として流通する便利な媒介物でした。
- しかし、いつしか貯蓄、運用という現実経済とは違う世界にお金が使われ、増殖され、世界をめぐる、富が集中し、国家の思惑が介在するようになり、お金がなくては生きていけない世の中に変貌したのです。
- 経済の規模を適正に維持し、社会的破綻を起こさないためには、国や雇用に依存しないでも生きることが出来る、思いやりの人間ネットワークが必要なのです。
- 意志を持たないマネー経済に対し、個性を持つポイント交流(未市場経済)が底辺を支えます。
- 昔の、自然なありがとうの行為は、人を守り、活かし、育て、希望と勇気づけます。
- いま、それに戻ることはできません。今日の日は昨日までの歴史の流れの中で進むしかありません。
- マネー争奪競争から感謝の協働、連携へシステムへ
- 人と人との感動の価値ある交流、感謝のポイント交換=電子個性通貨

# 電子個性通貨とは？

- 日常生活における助け合いと、その感謝度をポイントで表現します。
- 感動交流 & コミュニケーションの履歴です。
- ポイントは個性を持ち人格をたたえます。
- 人を活かし育て、生活を支える新しいライフライン。
- 未市場のポイント化は経済を活性化します。
- ある人は助けられ世の中から引き上げられます。ある人は徳を積んで後世まで称えられる貯徳通貨と言えます。
- まずは0からスタートします。プラスになるもマイナスになるOK！
- 子々孫々に生き様を伝え異次元で交流する魂の伝承。

# 電子個性通貨システムの真理

- 人の本来の喜びは自己成長と貢献。  
”ありがとう”と言われる事に最大の喜びを感じるのです。
- その”愛を刻み残し、皆が知り称え続けること”ができれば、もっと人を助ける事が楽しくなるだろう。
- コミュニティ感覚と遊び心と実用ライフラインとして息づく新SNS、これが電子個性通貨システム。

ユビキタス社会の必須アイテム！ **人が人として生きる**車の両輪！  
個性を活かす感謝ポイント  
「電子個性通貨」



# 徳積明と脛梶未来さん

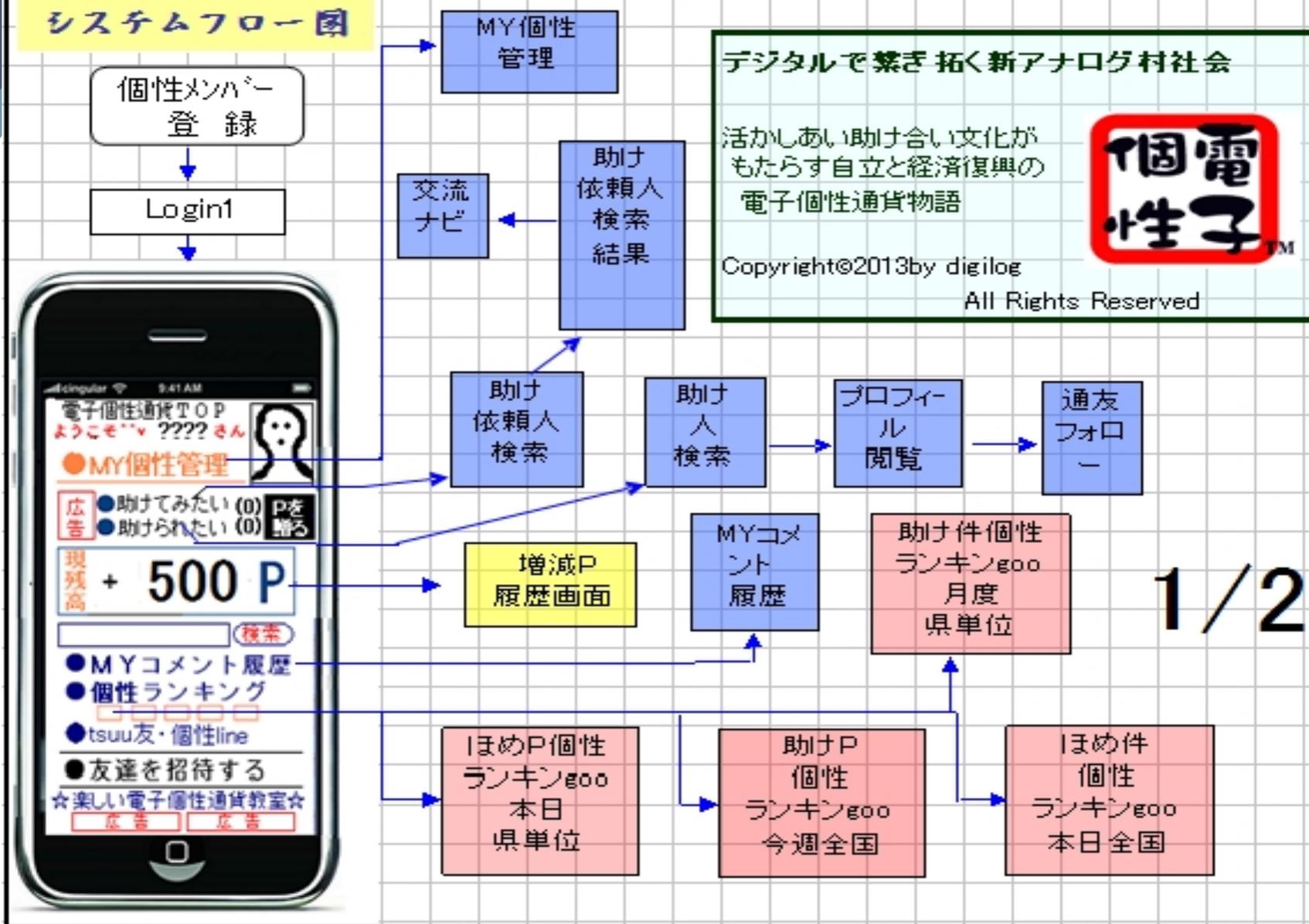


徳積 明さん

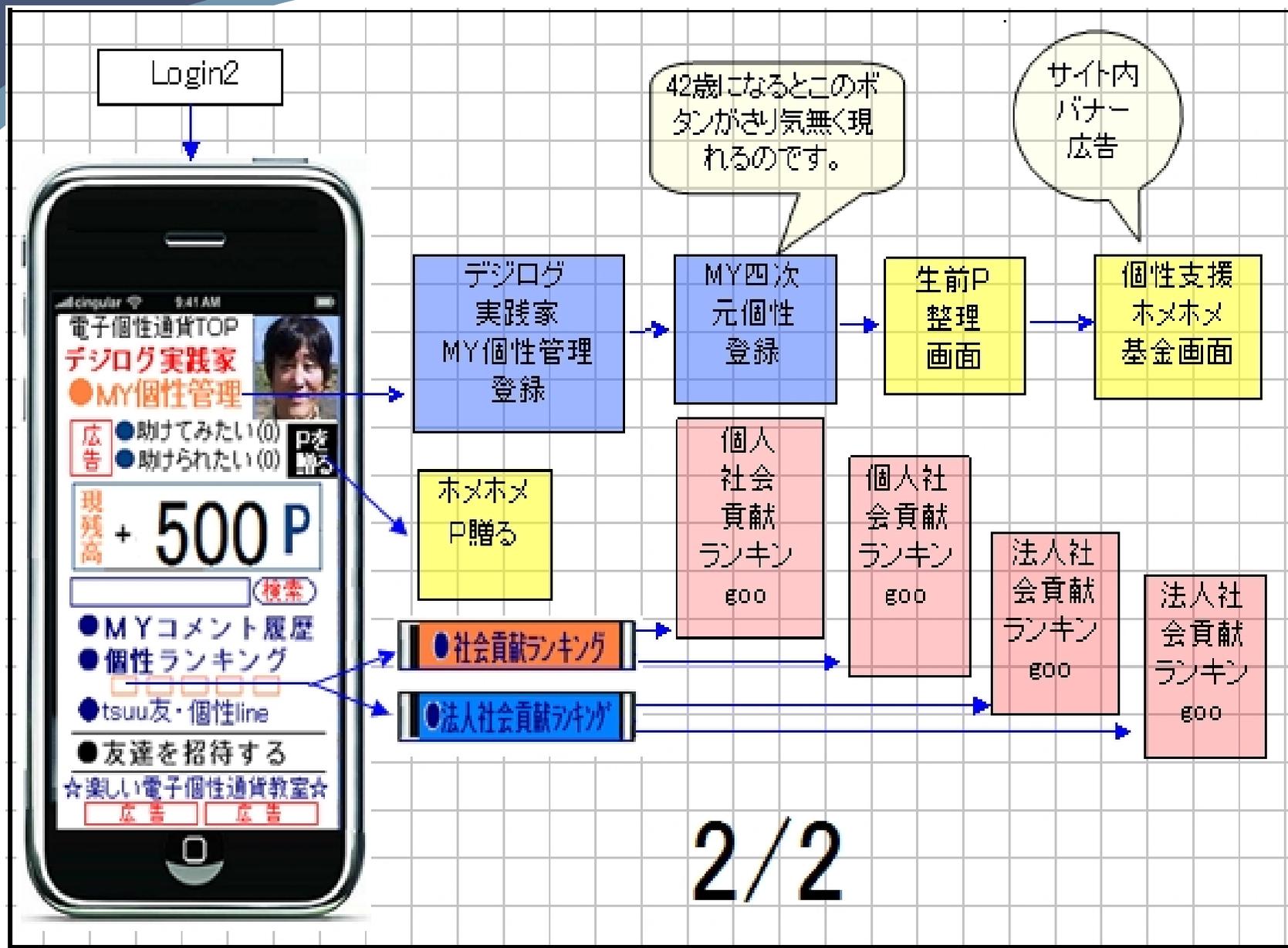


脛梶 未来さん

# 電子個性通貨 システムフロー図



1/2



# 電子個性通貨まとめ(1)

- 自分の能力を発揮することで生活の糧となり、仕事のレベルも上がります。頑張っている人が世に出る仕組みです。
- 無駄な支払いが減り、必要な消費が高まり本当のプロが育ちます。
- 徳を積むレベルの方から、どうやって生活しようかの層の方まで日常で交流できる、感動の活かしあい、助け合い、育み愛の仕組みです。

## 電子個性通貨まとめ(2)

- 個別の組織 & 団体、一定エリア内の運用、団体通し、団体組織と個人、そして世界と無理なく展開できます。
- 人と人との感動の交流から、モノとの連動も可能です。
- 特許「電子個性」概念のシステム化で情報の信頼と広がりが築けます。

# 電子個性通貨Q&A

・どうやって使いますか？無料ですか？

⇒PC、携帯端末からWEB閲覧、電子個性通貨MY管理画面に入って使います。ユーザーは無料です。

・交流する人はどうやって知るのですか？

⇒内部検索です。

このシステムは利用者自身のポイント管理、履歴、ポイントメニュー公開を行う広義のSNSです。

利用者の判断で自身の個性の管理、公開は柔軟にできます。

・登録は実名ですか？

⇒実名、ニックネームどちらでもどうぞ。ただ、ポイントの交流を通じて必要な相手には実名で活動する流れになる場合が出てくるでしょう。実社会と変わりません。

・永久登録とありますが、、？

⇒ご本人の登録時、ご利用時に決めることができます。自分の生きざま、ポイント履歴を後世に残したい場合はお亡くなりになってもサーバー上では永遠に生き続けます。多くの感謝、功績はいつまでも賞賛され続き、後世へ伝承することが出来るのです。

# 電子個性通貨の現状と計画

- 携帯端末にてポイント交流するべく、個人の電子口座管理システムソフト開発
- システム開発期間6ヶ月  
⇒ 上記予算@万の協力者募集中。  
(2014年内に目処をつけたい)
- システム構築後は企業、団体、グループ、市町村へシステムをOEM供給
- 新法人にてシステム開発。
- 新法人にてシステム運用支援。
- NPO日本挑戦者ネットワークにて個性人財認定、啓蒙。

※特許電子個性の具体的なサービスモデル。

※世界視野、多言語版計画あり

- ・各県に1名以上エリア運営ディレクターを育成

# 電子個性通貨の事業性

- WEBやアプリ内の広告
- 登録会員へのメールマガジン送付による広告配信
- アンケート収集などの分析収入
- 有能人財、企画の事業化と促進
- OEM供給組織へのシステム利用料（OEM運用組織自身は先の報酬システム他を保有します）
- 現金寄付とのポイント交換（寄付金は会員サービス、協働事業に利用）

# 電子個性通貨twitter語録

時代を超えて点と点が繋がって何か産まれると  
ジョブスの有名なスピーチにあるけど、電子個性通貨もそう。  
初めての点は5-6才の時だった。向かいのお爺ちゃんから  
タバコ屋に行って黄色い包装の「いこい」を買うお使いをよく  
頼まれた。持って行ったら庭で作ったイチゴをくれた。

タバコ屋は近くだったのでお爺ちゃんも歩いて行けたと思うが  
今思えば子供と触れ合いたかったんだと思う。  
貰ったイチゴは時々、ハサミ虫がいたり虫が食いの穴が空い  
てたが「虫が食わんマズイもんは人も食わん」と言って笑った。  
いつしか僕もタバコ屋のお使いを心待ちにした。

次の点は中学卒業の春休み

小学校6年組は纏まりがあり、先生交えてよく遊びに行った。

先生の引っ越しがあるので、皆んなで手伝った。お疲れさんと出た先生の握ったオニギリと漬物の味は最高だった。引っ越した後も、時々遊びに行っては、手作りのご飯を食べた。

ご飯をよばれてばかりじゃ悪いと何か手伝う事ないかと後片付けや重いもの運んであげたりしたなあ。

人は支えあったり励ましあって生きる事、認め合って協力する事は素晴らしいと子供心に確信したものだ。

しかしその後、日本は核家族となり、都会に出て行ったサラリーマンは企業戦士となり高度成長の波に乗って(欧米人と比べて腸が数倍ある農耕民族には相入れない) お金中心のグローバルスタンダードとやらに巻き込まれていった。結果何が残ったのか？

そういう味気ない社会で自身もサラリーマンに席を置きながら、そのストレスをバンド活動やサーフィンチーム結成で紛らわす日々が続いたが、その後に来た。サラリーマンをドロップアウトして独立、ほどなくして日本一のコンサル先生と仕事をする事に。

コンサル先生は目に見えない理念共鳴と言う領域を深くえぐる天才。今でも自身の思考の核となっている。この時コンサル先生の外部ブレインだったのが後の電子個性の発明者Uちゃん。MACを操るクレバーな頭脳はモノが違うって感じ。後々の点と点を繋げた出会いとなる。

次の点は全国流通情報ネットプロジェクト。月に一度上京し来るべき高度情報社会についての実践ゼミに出席しゼミでディスカッションする。まだインターネットもない時代。情報戦略CIO育成、専用端末をネットワークして必要な情報が必要な人に無理なく伝わる全国流通の仕組みがテーマだった。

電子個性通貨に行き着く道は、いろいろな点と点の繋がりがあある。次の点はNTTが開発した文字図形放送。この回線を利用して日本初のオークション、郵貯オンラインを使ったネット通販(カタログを併用した)の全国展開に関わった。でもインフラの脆弱さはネックだ。

汎用端末でもインフラ利用料の高さが何と言っても壁だった。良い情報をそれを必要な人に無理なく伝わる仕組み、いろいろな会社がチャレンジしたがコンテンツの貧弱さも含めて消えて行った。先のVTXの通販会社は郵貯決済システムで活路を見出したかWTCのテロで投資が引いて一瞬に沈んだ。

何を売るにしても全て絡むのは決済システム。生産性のない銀行やサラ金会社が儲かる世の中ってどうみてもおかしい。たかが決済、されど決済。決済って互いの思惑や期待をプラスマイナスゼロにし納得させる数字遊びなんだよね。

1999.2 iモードが初めてインターネットに接続した。過去のいくつかの節目の点が繋がり立体イメージへと進化した瞬間だった。動き回るのが人、そうモバイルなのです。必要な情報が必要な人に相当の価値を以っていつでもどこでも伝わるインフラはその後加速度を増す。

同じ頃、エンデの遺言、時間預託等を知り、地域通貨の代表的なメーリングリストのゲゼルに参加した。地域活性化や触れ合いを求めて全国で地域通貨が実践された。でも地域であるがゆえ、広がりが初めから閉ざされ手間や時間コスト、中身の限界、商業者の販促発想、他問題山積と感じた。

その中でも電子個性通貨への立体イメージができたのがE社だった。E社は電子ポイントの利用法として主に物販の流通を定期イベントを通してやっていた。私も利用者として携帯画面のMY口座から販売者の口座へ携帯を使ってポイントを送金し野菜をGET。斬新で面白いと感じたが、、。

電子個性通貨の直接のイメージとなったE社、携帯端末でポイント口座がその場で増えたり減ったりするのは現金と同じ感覚を持てた。今、目の前にある商品は携帯のMY口座にあるデジタル通貨でしか手に入らない。問題のポイントは円を絡めて取得する事しかできない。結局は金集めの武器、作戦なんだよね。

電子個性通貨の目的は人を認め活かし助け合い育みあう生きる希望と夢を持てるコミュニティー&ライフライン。失敗したE社とは対極にある。しりすぼみになった地域通貨は商売人側からの発想。いま人気のSNSは表面的な繋がり、現実とのギャップ、宣伝の場ではない。

今までの色々な仕組み、システムの良い所は取り入れまた既存のシステムと連動させる事でより使いやすく絆まで深めるコミュニケーションツール、それが電子個性通貨。フェイスブックが日常に使われる意識になり、そして回線速度が上がりスマホがシェアをあげて来た今、機は熟したのです。

電子個性通貨、感動の活かし助け合いポイントの本質は今迄の市場にない市場の創造です。常に価格がついて回る市場にあるモノ、サービスを利用するのに円が必要なのに対し、この市場は人と人の関係や価値観でそれを認定評価します。そこには円は不要で感謝や思いやりさえあれば手に入れられる感動の通価、、。

結果、円がなくても価値を手にする事ができる。円と同等の機能も果たせるいう事では一種の通貨と言えらとすれば、この通貨は意思、個性を持った通貨なのだ。皆さんの財布に収まっている紙幣は何の意思も個性もなく、あるのは数字です。色々と買える便利な紙です。

色々買える便利な円は数字が全て、大きい数字は小さい数字を引き寄せ、何故か大きくなるのです。これは貨幣経済の意思です。よって人はその意思に合わせて全てを求めるようになりました。人と人をつなぐ価値の交換の手段が、人を見ないで数値を見るようになりました。

人と人との価値の交換手段だった通貨はいつしか形を変え人間関係を、社会を変えてしまいました。お金が全て、お金がなければ生きていけない、と。電子個性通貨はその対極にあります。人と人の価値の交換に個性をつないで、それを伸ばして目の前の夢の実現に向かう希望と勇気が生まれるのです。

交わる事による創造性、活かし愛、助け愛、育み愛。昔の大家族や村社会の絆を21世紀に蘇らせるSMSソーシャルマネーサービス、SLNソーシャルライフネットワークです。

● 感動の個性通しの営みに学ぶためタイムラインをつけよう、SNSのように。違う点は、見るのは眩みや自慢話や宣伝じゃない。日常的に行われる感謝交流の現実。フォロー先の財布の出し入れを垣間見る事で真の人とおしの交流物語を学び、見せる事ができる。

- 相反する欲求。安定感と変化、自己重要感と愛
- これらをまとめて手に入れることができるのが電子個性通貨。そして、本当の人間の充実感は成長と貢献。電子個性通貨は感謝されながら成長する。
- 成長するから貢献できる。

## ● 電子個性通貨が成り立つ理由は？

簡単！人はありがとうって言われたい、死んだあとも言われ続けたい、そしてみんなの記憶の中に生き続けたい。若い時は力もないし未熟だから親を始め、周りに迷惑をかけながら成長していく。

大人になってイイ年になると、その借りをなんらかの方法で穴埋めし、できればプラスにして、ありがとうと言われる人生にしたい。

それは人類共通の個性。



電子個性通貨ってイね!

POINT

活かし愛、助け愛、個人の自立と地域の笑顔を創る感謝の通貨